

No. 163

令和2年5月22日

【発行】

豊橋市立青陵中学校 校長室

t-asai-hideo@toyohashi.ed.jp

Rising Sun



不思議の国 ニッポン

5月22日現在の感染状況

	USA	GBR	ITA	ESP	JPN
感染者	1,577,147	250,908	228,006	233,037	16,513
死者	94,702	36,042	31,486	27,940	796

新型コロナウイルス感染症は、3月、4月に世界各地で感染爆発を起こしました。その累積が上の表です。ご覧になって、どんな感想をもたれるでしょうか。欧米諸国の感染者数は、軒並み日本の10倍以上です。アメリカに至っては、ほぼ100倍の感染者数です。死者数の比較でも二桁の違いがあります。これをどう説明したらよいのでしょうか。

No.153でもお伝えしました。日本は、

- 1 手洗い・うがいの習慣がある
- 2 マスク着用の習慣がある
- 3 挨拶は「お辞儀」でする習慣がある
- 4 家では靴を脱ぐ習慣がある
- 5 公的医療保険制度が充実している
- 6 BCGワクチン接種を受けている

付け加えて、7 毎日お風呂に入る習慣がある

言われてみれば、確かに事実ばかりです。日本は、世界で最も衛生的な国なのかもしれません。しかしながら、科学的・医学的な裏付けは全くありません。

今のところ、欧米諸国のようなオーバーシュートには至りませんでした。より厳しいロックダウンではなく、あくまで「要請」レベルの休業であり外出の自粛でした。にもかかわらず、日々報告される感染者数、死亡者数は減少を続け、素人目にも収束に向かっていることがわかります。あるコメンテーターは、(ちょっと驚きですが)「単に運がよかっただけ」と言っていました。果たして本当にそうなのでしょうか。私には、確からしい原因があるように思えてなりません。

iPS細胞によってノーベル生理学・医学賞を受賞した京都大学 iPS 細胞研究所所長山中伸弥教授は、その理由を FactorX(ファクター：要素、要因)として次のよ

うに述べています。

ファクターXを探せ！

日本の対策は世界の中でも緩い方に分類されています。しかし、感染者の広がりや世界の中で最も遅いと思います。何故でしょうか？たまたまスピードが遅いだけで、これから急速に感染が増大するのでしょうか？それとも、これまで感染拡大が遅かったのは、何か理由があるのでしょうか？私は、何か理由があるはずと仮説し、それをファクターXと呼んでいます。ファクターXを明らかにできれば、今後の対策戦略に活かすことができるはずで

【ファクターXの候補】

- 感染拡大の徹底したクラスター対応の効果
- マスク着用や毎日の入浴などの高い衛生意識
- ハグや握手、大声の会話などが少ない生活文化
- 日本人の遺伝的要因
- BCG 接種など、何らかの公衆衛生政策の影響
- 2020年1月までの、何らかのウイルス感染の影響
- ウイルスの遺伝的変異の影響

<http://www.covid19-yamanaka.com> より

今後専門家による研究や分析が進み、いつの日かファクターXの正体が解き明かされる日が来るはずで、その日を楽しみにしましょう。

さて、先週の39県に続き、昨日関西の2府1件の緊急事態宣言が解除されました。残された1都3県1道の解除も時間の問題だと見られています。

解除後に心配されるのが、再びの感染拡大です。本格的な学校再開後の私たちに突き付けられた大きな課題でもあります。キーワードは「徹底した感染リスクからの回避」。環境的には決して恵まれているわけではありません。そんな中でもできることを一つ一つ積み上げていきましょう。3年主任中野先生考案の「手作りシールド」のようなアイデアをどんどん出してください。よろしくお願いします。